

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370600639
法人名	医療法人 誠真会
事業所名	グループホーム おかもと
訪問調査日	平成 20 年 1 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人あすなる福祉]サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年2月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4370600639
法人名	医療法人 誠真会
事業所名	グループホーム おかもと
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5 (電話) 0968-71-2622

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(19年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 14.5 人

(2) 建物概要

建物構造	RC造り		
	2階建て	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.75 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡本外科医院 城ヶ崎病院 玉名地域保険医療センター 城井歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玉名市の中心にあるホームは母体医院に隣接し、“ゆとりと笑顔”を目指したケアが行われている。毎月の定例会議を法人全体で開催することで、情報の共有化、意思の統一が図られ、日々職員は健康管理に気を配り、最期まで一緒に支えていきたいと取組まれている。職員の明るさやさりげないケアが入居者の笑顔として表出され、ゆつくりと和やかな生活のなかに身体機能低下防止に軽体操を採り入れたり、地域の行事等に参加することで認知症進行防止に繋げている。職員の観察、寄り添い、傾聴等により発語や離床へと繋がっており、ケアの確かさや質の高いケアの実践であることが確認できた。運営推進会議を活かし、地域住民との密接な関係が強化されており、今後更に地域福祉に貢献されることが期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義を十分理解し、前回の評価後全職員へ回覧し、課題一つひとつを話し合い改善を図っている。改善点を明記し、処遇面や環境面での課題点等具体的な改善が図られ、生活空間作りとしてホームの表札・看板の設置により地域の方々にはホームが分かり易くなったり、玄関ホームの整理整頓等改善計画シートを作成し評価を行いながら改善へ向け取組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価はユニット毎に全職員で取組み、改善点を見つけて話し合う機会と認識し、更に質の向上に繋がりたいと前向きな姿勢で行われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政・包括支援センター・区長・老人会長・入居者・理事長・理事・顧問・管理者、時にはインターシップで訪れていた高校生等多くの参加での運営推進会議は2ヵ月毎と定例化し、現状報告や意見交換が行われ、質の向上に繋げている。今後更に外部評価の結果を踏まえ運営推進会議内容を充実していく意向である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や年1回の家族会又訪問時に意見や要望を聞く機会と捉え家族との親密な関係を築き、出された意見や要望を話し合ったり、連絡ノートを活用し検討を重ねるなどホーム運営に反映させている。重要事項に苦情処理担当者や処理体制・手順等を明記している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民との関係強化にホーム独自の行事等企画され、多くの地域住民との交流が行われている。運営推進会議を通じて老人会との相互交流も図られ、毎週ボランティアとしての協力者も訪問されている。更に運営推進会議の中で介護教室等の開催が検討されており、地域福祉に貢献されることが期待できる。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より入居者一人ひとりを大切にしたいケアを目標に、安心と尊厳ある生活の支援と地域に密着し、ゆとりと笑顔のある“家”を目指すということを理念とし、地域に密着した生活が支援されている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申送り時に唱和することで意識付けを行うとともに月例会議の中でも理念に沿ったケアであるか話し合いを行っている。理事及び管理者も日々理念の実践に向け指導を行い、職員は年間スケジュール等目的を持ったケアに当たり、家族や外部者への理念の啓発も行っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の行事、花見や夏祭り等地域の方々が気軽に参加できるよう声かけし、子どもから大人まで多くの参加を得ている。餅つきには多くの参加を得て楽しまれた様子が多くの写真より推察できた。老人会の慰問やホーム側も敬老会や野点等に招待され、地域との交流が図られている。毎週地域の方がホームを訪れボランティアとして協力されたり近くの理美容院の理解を得ており、見守り支援等協力的である。町便りより地域行事をリサーチし、様々な行事へ参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価後全職員へ回覧し、早急に取り組める事項から一つひとつ話し合い改善を図っている。改善点を明記し、処遇面や環境面での課題点等具体的な改善が図られている。生活空間作りとしてホームの表札・看板の設置により地域の方々にホームが分かり易くなったり、玄関ホームの整理整頓等改善計画シートを作成し評価を行いながら取り組んでいる。今回の自己評価はユニット毎に全職員で取り組み、改善点を見つけて話し合う機会と認識し更に質の向上に繋がりたいと前向きな姿勢で行われている。</p>		
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>行政・包括支援センター・区長・老人会長・入居者・理事長・理事・顧問・管理者、時にはインターシップで訪れていた高校生等多くの参加での運営推進会議は2ヵ月毎と定例化し、現状報告や意見交換が行われ質の向上に繋がっている。今後更に家族の参加が多くなるように資料などを活用したり、家族会の中で運営推進会議での取り組みの説明や外部評価の結果を踏まえ会議内容を充実していく意向である。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加や介護認定申請時等の交流がある。法人理事のボランティア活動等を通じた行政との関わりの中でホームの実情や市の問題点等話し合いの機会がある。	○	更に今後評価結果等提出時等を通じて市担当者との交流を図り、ネットワーク作りに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「おかもと便り」や家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態を説明し、金銭管理は金銭出納帳により確認してもらっている。職員の異動も訪問時口頭にて説明をしている。遠方の家族には個別に手紙で現状報告をし、行事ごとの写真の掲示やビデオにより、具体的な日常生活を見てもらい家族への安心へ繋げている。	○	介護一口メモが「おかもと便り」の中にも記載されているがこの欄に記載者を掲示することで、家族が職員の名前を覚える事も出来る。空きスペースを有効活用し、食事メニューや献立を写真として掲示する等家族への周知や安心感へと繋げられることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や年1回の家族会又訪問時に意見や要望を聞く機会と捉え家族との親密な関係を築き、出された意見や要望を話し合ったり、連絡ノートを活用し全職員で検討を重ね、ホーム運営に反映させている。重要事項に苦情処理担当者や処理体制・手順等を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族との信頼関係を保つため、異動はほとんど行われていない。職員のほとんどが常勤であり、希望休や育児休暇等福利面も確立しており、継続した職員が生き生きとケアに当たっている。離職時には引継ぎや新人教育の徹底、入居者や家族とのコミュニケーションを図り、ダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、資格取得費用の援助や外部研修への参加も勤務とし、働きながら学ぶ事を推奨する等バックアップ体制が構築し、外部研修の日程を掲示し職員への周知を図っている。職員はケアマネージャー協会やグループホーム連絡協議会等外部研修や毎月定例会議の中で輪番で講師となり勉強会を開催している。外部研修後資料を回覧したり、会議の中で報告し全職員の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し交流促進に繋げ、学習会(年間スケジュール有)に参加し、情報交換や問題点を見出しお互いにアドバイスする関係が構築され、質の向上に努めている。他のグループホームの見学等にも応じるなど連携して取組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が施設や自宅を訪問し本人や家族の様子をうかがったり、安心しての入居とするため家族と共に事前に訪問してもらい信頼関係を築くよう配慮している。入居当初は家族も頻繁に訪問されるなど家族の協力もあり、ゆっくりとホームでの生活へと移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩である入居者を敬う気持ちを忘れず、ケアに当たっている。調理や昔からの風習や習慣等教えてもらうように場面作りや声かけをしている。職員の頭髪や服装などの指導や職員の顔をうかがい心配して声かけされる等入居者から学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で本人の思いを見出し、困難な場合は家族等のキーパーソン以外からも情報を得ていることが詳細な“暮らしの情報”から窺われ、家族とともに本人本位になるよう支援している。入居者が言葉を発せられるようになったり、寝たきりの状態から離床され食事も同席できるようになる等職員の寄り添いのケアの確かさを知る事もできた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採用し、本人、家族の意向や要望を踏まえ、毎月全職員と医師である理事長等を交えた定例会議の中で全入居者のケアカンファレンスを開き、24時間アセスメントまとめシート等を活用した介護計画を作成している。職員の観察力や気づきが随所に反映された詳細な個別介護計画となっている。		
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月毎に見直しを行っているが、職員はケア計画と入居者の現状を常にチェックし、医師や看護師、作業療法士との密な連携を図り、状態の変化や本人・家族の要望等に応じ随時見直しをし、介護計画を変更をしている。管理者はケアの統一と情報の共有化の為、送りノートに個別ケアを絵入りで指導したりと送りの徹底化を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の要望に通院介護や個別外出の同行また家族の宿泊の用意等柔軟に対応してる。地域との連携を図り、年末の餅つき大会では地域の独居老人へ配り、安否確認をする等多機能性を活かした取り組みを行っている。医療との連携により受診や入院の回避、早期発見に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診状況を把握し、今までのかかりつけ医や母体医院、協力医院等本人や家族の希望の医療機関での受診となっている。医師である理事長が頻繁に訪問され、入居者の現状把握に努められるとともにホーム職員も担当看護師との情報交換を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者本人や家族、医師、看護師とホーム職員が終末期の対応方針を話し合い、“最期までこのホームの優しいスタッフと一緒に過ごしたい。”という入居者の思いに応えるべく、ターミナルケアに取り組んでいる。ホームでの対応方針を全職員が共有し、ケアの統一が図られ、話し合いの結果を詳しく記載している。	○	入居者や家族の気持ちを大切に終末期を支えられている。更に重度化や終末期に向けた方針を明記し、同意書も作成されることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかな声かけや耳元での声かけ等入居者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。面会簿の記入方法や記録の保管等から個人情報に留意されていることが窺われる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に応じて、個別に入居者のペースに合わせた生活支援である。その日の気分や体調により食事を個別に対応したり、起床就寝時間等希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット毎に異なった献立は、入居者の好みや旬の食材を採り入れ、バランスの良いメニューとなっている。食材の下ごしらえや盛り付け、ランチョマットを片付けたりと出来る力を発揮させる場面を作っている。職員は介助の必要な入居者の横で会話を引き出しながら和やかな食事を支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じ午後より入浴支援が行われ、入浴日を忘れられる入居者は自分でカレンダーに記入されている。入浴を嫌がられても強制する事無く声かけを工夫しながら入浴へと導いている。足湯の用意やゆず湯や菖蒲湯等季節行事に対応したり、時には日帰り旅行で温泉を楽しまれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除機がけ・モップがけや料理への参加等日常生活に関わってもらい、昼食前にはAユニットに集まり軽体操を採り入れ身体機能低下防止に努めている。梅干しやらつきょう漬け等入居者の知恵や経験を發揮してもらう場面を作ったり、入居者自身が昔踊っておられたビデオを見て、やる気を引出す等潜在能力を活かした支援が行われている。地域行事へ参加したり、ホームでの行事等気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や体調により敷地内を散歩したり、買物へ同行したり個別に対応している。母体医院のワゴン車の使用で、季節に応じた外出が年間計画に組み込まれており、楽しみごとの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけないケアの意義を理解しており、入居者の不穏状態や外出したい様子を察知し、声かけや傾聴等細やかな気配りにより居室や玄関等の施錠は行っていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力を得て医院と合同の避難訓練が実施されている。自動通報システムや煙探知機、非常灯、熱探知機等も整備され、災害に向けマニュアルを作成し、非常持ち出し袋も設置している。今後更に地域の消防団との連携強化を図る意向である。	○	消防訓練は今のところ近隣住民の参加はない。まずは訓練の様子を見学していただけるよう、訓練日時等連絡されるなど声かけしていただき、地域住民の協力が得られることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況や水分補給の状況を観察し、バイタルと共に記録する事で栄養バランスや脱水防止に努めている。Bユニットでは常にみかん等をテーブルに用意し、Aユニットでは寒天を加え炊飯し排便コントロールとしたり、ユニット毎に工夫した健康管理が行われている。食思減退時等は医師や看護師の指示を受け、適切な支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や愛犬が出迎え、室内はバリアフリーでエレベーターを設置している。共有空間は入居者の作品や居室の入口には入居者の目印として似顔絵が飾られ、季節毎に調度品を替えたりと職員の特技や季節感を採り入れた空間としている。室内は明るく、清潔感に溢れ、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と話し合い、家族の協力が得られた居室は仏壇やテレビ・冷蔵庫等様々なものが持ち込まれている。ベッドの前にスベリ止めとしてマットが敷かれたり、冬場の寒さ対策にも十分配慮し、それぞれが過ごしやすい居室づくりをしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 誠真会 グループホームおかもと
(ユニット名)	Aユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市亀甲251-5
記入者名 (管理者)	平川 峰子
記入日	平成 19年 10月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちはひとりひとりを大切に、安心と尊厳ある生活を守ります、地域に密着した皆にゆとりと笑顔がこぼれるホームを目指します」ゆっくりとして穏やかな安らぎのある暮らし関係性強化を地域に根ざしたホームとして理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	話し合いの場をもち1人1人の豊かな生活のため、希望に応じるように、ケアの統一を図り対応し取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	訪問時、家族等には折に触れ伝えている、ホーム便りの活用と、ホーム見学の場面でわかりやすく説明したりもしている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	掃除のとき挨拶をかわし日常会話を兼ね行事・見学の声掛け等気軽に会話を交わしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事への参加は声掛けで参加してもらっている、近隣の方に週1回ボランティアできていただき交流を深めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	2ヶ月1回運営推進会議を利用、又研修会への参加、実習生の受け入れも積極的に行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義や目的を他スタッフへ伝達、サービスの質の向上に努めている、外部評価の結果は改善に向け検討、実践し努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告、状況報告、現在取組んでいる内容について報告や意見要望を得てサービス向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外、行き来する機会がない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会参加により学び、対応が必要な方あれば随時スタッフに説明アドバイスを行い支援に結びつけたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	それぞれスタッフが自覚し常に注意し防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとって丁寧な説明をする余裕がなく重要点のみ説明、又不安疑問点を尋ね理解納得を得ている</p>	<p>○</p> <p>今後もっと十分な時間的余裕を取り説明が必要な取り組み強化している。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>言葉や態度から思いを察し、努力シケアに活かしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来訪時現状報告を伝達、月便りを郵送し金銭出納帳による使途の確認、個別ノートに記し必要時にその都度報告している。行事ごとの写真やビデオを見ていただいている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族会・手紙・訪問時の意見要望をミーティングで話し合ったり連絡ノートを通し検討、質の向上に取り組んでいる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、申し送り時に意見要望や提案等出されたらコミュニケーションを図り、問いかけたり聞いたりする様にしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>無理のない勤務になる工夫が出来、又都合に応じ柔軟にスタッフの配慮を考えている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>固定化し顔馴染みのスタッフがケアを心がけている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会等順番で参加し定例会等で発表、報告書を回覧したり、日々の体験を意見アドバイスを受け、学びにつなげ育成に取り組んでいる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支部会、研修等での学習会での交流を持つ事によりサービスの質の向上を目指している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常会話時、ストレス・悩みを把握する様努め定例的な支部会との交流で気分転換を図る機会を作っている。休憩時間場所の確保に取り組むストレス軽減を図った。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの資格取得に向け支援をして、活かせる業務環境作りに努めている。スタッフの定期的な健康診断も行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時前面談で生活状態を把握、心身の状態、思いに向かい合い、受け入れられる関係作りに努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の求めているものを理解しどのような対応が出来、これ迄の家族の苦勞、サービスの利用状況、これ迄の経過について聞くようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行なっている。改善に向けた支援の提案と信頼関係を築きながらサービスにつなげる様にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフが施設や自宅に出向いたり、本人と家族が見学してもらうことから始め、安心感を持ってもらえる様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互い協働しながら、和やかな生活が出来る場面作り、声掛けをしている。	○	1ADL(耳かき・裁縫・代筆・買い物代行同併・爪切り)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子、スタッフの思いを伝える事により、家族とスタッフの思いが重なり、協力関係が築けることが多くなっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と共に過す事を勧めたり、行事へのお誘い等で良い関係作りを継続に勧め、来訪時本人と家族の橋渡し役を心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋、美容院行き、1ヶ月の間隔で定期的に行かれ、楽しい交流がなされている。	○	車椅子での送迎
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、楽しく過ごす時間に気の合う物同士で過ごれる場面作りに、うまくいくよう注意深く見守りをしている。関係が円滑になる様、働きかけもしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設転所となりしも、用事にて出向いたり電話にて近況報告を得たり家族への介護負担軽減の相談を受けフォローアップに努めている。	○	今後も家族への行事等の声掛け、参加を促し招待して関係を大切にしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし把握に努めている。家族関係者からも情報を得る様にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との語りの中、家族、知人の訪問時少しずつ把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムを理解し、行動動作を感じ現状の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中、思いや意見を聞いて反映している。	○	アイデアを反映 (転倒防止に足マット、定期的取替え、部屋トイレ出入口、下柱の角やローチェストの角々にスポンジテープを固定、すべり止め靴下使用)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状と以前の状況の比較により、変化が生じた時、家族本人の要望に応じて見直しをし作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックス、個別ファイルを用意し、状況把握とケア記録に記載、情報共有を徹底し活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	臨機応変に対応している、本人家族の状況に応じて、宿泊・通院・送迎支援にも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心に暮らせるよう、各機関と協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望により、訪問理容のサービスを活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員参加により、周辺情報や支援に関することが得られ、関係が強化された。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医、入居前のかかりつけ医での、医療を受けられている。往診もあり、複数の医療機関と関係を密にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	指定医を設け、受診や個人の(家族)選択専門医に受診の支援をしている。	○	個人情報、プライバシーの保護にて直接相談不可能、家族より間接的に内様の助言・伝達を受けている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に入居者様の健康管理や状況変化に応じた支援を行なう様にしている。相談・助言・対応も行なっている、医療機関との連携体制の支援も行なっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に本人への支援方法に関する情報提供をしている。見舞い時、医師・看護師・家族と話すの機械を持ち、対応可能な状態で、なるべく早く退院可能になる様アプローチしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応し、得る最大のケアについて説明を行なっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い入居者様が安心して終末期を過していけるように取り組む努力を行なっている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今迄の暮らしが継続されるよう、支援の内容、注意点について情報提供をしてダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>日々の関わりの中で点検し対応の徹底を図っている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>スタッフ側で決定したことを押し付けず、思い・希望・関心・嗜好を見極め選択肢を提案し、自分で決める、場面作りをしている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>一人一人の体調に配慮しながら、自分のペースに応じた支援をしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>自己決定が困難な方は、スタッフが一緒に考える支援をしている。梨馴染みの理美容院に行けるように努めている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>共に無理のない様に同じテーブルを囲み、楽しい食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。旬の食材を献立に取り入れ、食べたいもの等、希望にそように作成し食事を出している。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>各自の嗜好物を理解し、状況に応じて支援している。</p>	○	行事等、特別時に本人の体調に合わせて、提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間やサインを把握し、排泄チェック表使用し、誘導排泄を促し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフのローテーションにより、一人一人の希望タイミングを合わせが困難、午後より入り順を決めて、ゆっくり入ってもらい満足感を得られている。	○	入り順番は争いトラブルとなり、半一方的にスタッフが決定し、トラブル解消、入浴日を忘れる方にはカレンダーに自筆で記入し、意識付けに取り組んでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	考慮して休憩をとられる様支援しており、就寝前温かい飲み物を飲みながら、おしゃべりしたり支援している。	○	夕食後1～2時間経ってから、お茶だしをしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや、梅干・らっきょう・干し柿・切り干し大根等作り、経験や知恵を発揮する場面作り、外出や行事への参加楽しみごとを相談しながら行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を手元に持ち、お買い物や外出の際支払われる様支援している。	○	加齢と共に忘れもあり、家族、本人と相談しながら、一人一人の希望に合わせて、事務所預かりの場合は、個人の金銭出納帳に記入し、領収書も添付して管理して、支援に取り組んでいる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が体調に応じ、季節を肌で感じ、心身の活性に時々戸外散歩に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事を計画して、外出の機会を多く作り支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>会話が、他に聞こえない様に電話の設置場所を工夫し希望に応じかけられる様支援している。</p>	
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>気軽に来所しやすい雰囲気作りを心がけている。</p>	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会にて学習・自覚・理解し共有の認識を図っている。</p>	
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>外出されそうな様子を察知し、さりげなく声掛けして安全面に配慮し支え、見守り方法を徹底その日の気分状態をきめ細かくキャッチすることのケアに取り組んでいる。</p>	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>同じ場所で記録は、全員状況把握するよう努め、夜間フロアソファにて休憩を取り、時間ごと様子を確認しすぐ対応できる居場所に待機して安全に過していただくよう配慮している。</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>保管場所の取り決めをきちんとしている。嚴重に保管するもの、保管管理必要としたもの、使う時必要なもの分けている。</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故報告書に記録し共有の認識を図っている。マニュアルを作成し予防対策について検討、家族へ説明・報告を行なっている。火災訓練も年2回実施し徹底している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが実践としては、全てのスタッフ迄対処対応出来ておらず、隣接医院への応援依頼している。	○	初期対応の訓練を消防署の協力を得て、実際のあらゆる場面に備えて対処し活かして行きたい、技術を身に付ける取り組みを行なって行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し定期的に消防署の協力えを得て避難誘導訓練と消火器の取り扱い方等訓練を行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	自由な暮らしの大切さと取り組みを説明、理解を得られる努力をしている、やもうえない理由も同時に説明もしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の状況把握とバイタルチェックを行い変化と気づき点を記録し、必要に応じ医療受診している。早期発見対処対応にあたっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋のコピーにて内容把握できるようにしている。服薬服用確認と、変更時は状態変化にも気をつけ医療機関との連携も図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を考慮し、食材の工夫と、身体を動かす機会を設け工夫し取り組んでいる。	○	主食に寒天混入し、繊維質の多い穀物、乳製品を取りいれている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声掛けと、就寝前義歯の洗浄に口腔ケアの重要性を理解し支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記録し情報を共有、バランスの摂れた食事と量、飲み水による脱水防止に努め支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、台所の目に付き易い場所に貼り、気をつけ、家族同意のうえインフルエンザ予防接種も行なっている。	○	布タオルをペーパータオルに交換し、手指等、消毒液も併用し予防に取り組んでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具及び食器類は漂白し、清潔を心がけて台所清掃。冷蔵庫内残分においては点検・処分したりしており、安全な食材を使用、日々の衛生管理、点検に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチや花鉢を置き、明るい雰囲気になる様季節感を演出するよう、花を生けたり、行事ごとの写真やお便りを飾り、家庭的になる様工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に、生花や装飾やカレンダーを貼ったりして五感・季節感を意識的に取り入れる工夫、季節ごと調度品を替え工夫をしている。	○	月ごとの手作りカレンダーの作成等、共に作成に取り組んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファー及び椅子を置き、絵画・花・装飾して居心地の良く一人でも過せる場所作りと、フローアではソファーを置き、テレビやラジオを置き家庭的雰囲気を作り工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付け家具以外の使い慣れた物の持込で居心地良く過せる工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いがこもらぬ様換気し、各部屋に消臭剤や生花を生けたり、状況に応じ空調も行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや、各部屋の家具の角々と出入りロドア下方にスポンジテープを貼り、足元にはマットも置き、転倒防止にならぬ様安全確認に工夫し配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所の表示とトイレレバーの使用方法等、注意書きを明記・貼って工夫、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。	○	新聞紙で汚物入れを作成し、トイレ内に空き箱を設置しその中へ作成した分をセットして、自力でパット・パンツ交換ができる様取り組んでいる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダの周りにプランターを使用、花や小葱・ニラ・青じそ等を作るスペースを確保。日常生活を楽しみながら活動できる環境作りをしている。椅子やベンチを出して、日向ぼっこも出来る様工夫し活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

日常生活の支援を行い、家庭的雰囲気や隣接の医院もあり、ゆっくり安らげる安心の生活が継続出来、地域に密着したホーム作りを目指して頑張っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 誠真会 グループホームおかもと
(ユニット名)	Bユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市亀甲251-5
記入者名 (管理者)	永田 正子
記入日	平成 19年 10月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	折にふれて理念に基づいた行動が行なわれているか互いに確認しあい初心を忘れない様にして心がけたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	桜花見、餅つき(近所の独居老人への餅配り)等を実施、近隣者の理解を得よう努力しているがもっと地域とのふれあいができる行事を企画していきたい。地域の行事に参加できる様働きかけ、受け入れ態勢が整うよう推進会議の場でも働きかけを行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行なっています。(他グループホーム・地域の学生・職場体験)	○	地域の寄り合いの場所で、高齢者介護の実践に基づいたケアについてお話をする機会を得たいと自治会長さんをお願いしています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフと協議しながら自己評価を行なった、又前回の外部評価の結果を回覧後、改善策についてミーティングを度々行い、すぐに取り組める項目については速やかに対処した。	○	経営者との交渉の為に改善点を明記した書類を掲示し改善に向けて取り組む内容を細かく話し合ったところ処遇環境面の改善がなされているところです。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で検討した内容について次回経過や取り組み実践内容等について報告するようにしている又外部にお願いした事項についてどの様に動いていただけるか等確認する様にしている。	○	外部評価についての話し合いが不十分かと思われますので限られた会議の時間を有効に活用して各参加者様に対し経過報告をし内容の評価を受ける等会議内容の充実を図りたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議以外の交流はほとんどありませんが理事の社会的ボランティア活動を通じての市町村とのつながりが有り事業所の実情や市町村のかかえている問題点について話す機会があります。	○	これからはホームとしてのつながりを持てる様に働きかけ入居者様に対するサービスの質が向上する為に共に取り組んでいきたい互いに悩み事を解決する手立てを保っていききたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加し理解を深める様にしていますが当ホームにおいては今まで該当する事例がなく活用の機会は未だない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH連絡協議会等に参加しホーム内でも研修会を行なって虐待が起こらない様スタッフ全員が気配りをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に本人家族に対し月々必要な入居料や諸経費、リスク・ターミナルケア、医療との連携、行事への家族参加等詳しく理解していただける様、説明を行い疑問に対して何度でも説明を行なっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの意見は些細なことであっても必ず時間を取って、じっくり聞き解決できる方法を全スタッフ、入居者様と共に考え満足が得られるまで色々な改善策を講じている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族にホーム便りと合わせて個人別に手紙を添え行事参加の様子や近況についてお知らせをしている。又家族面会時にはスタッフより状態の説明等行なっている。	○ 家族とスタッフのコミュニケーションを大切に感覚のずれが生じない様努めている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を設け自由に意見を出せる様雰囲気作りをしている。又行事に参加された際、家族同士で話せるようバス座席の配置を工夫したり気楽に話し合える様留意している。出された意見についてはミーティングを行い改善する様に行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会議や日頃のミーティング(申し送り後)の際にスタッフの意見、要望を聞ける様、気を配り改善意見等をまとめて理事と相談していくつかの改善が実施された。	○ 職員の処遇について未だ改善されていない点も有るのでこれからも運営者と職員の橋渡しができる様努力していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	非常勤職員を各ユニットに1名ずつ配置して緊急時に対応しているがホーム行事の際は時間外で出勤してもらっています。又入居者様のペースに合わせたシフトは人員上出来ていません。	○ 柔軟な職員配置を実現できる様職員に増員退職者の協力等をお願いしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	A・Bユニット間の介護負担の差が大きい為定期的に職員の異動を定めているが入所者様家族との信頼関係を保つため2年程異動は行なわれていない又離職に際して、時期や引継ぎに充分時間をかけて1ヶ月は1対1で指導している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他協会やGH連絡協議会の学習会や研修会に順番に参加し定例会議の場で研修内容の報告をしてもらい、内容を後日回覧できる様にしている。	○ 定例会議の終わりに各ユニットから交代で1名ずつ学習会を受け持って発表してもらっているので、これからも続けて行ける様アドバイスを行なって行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会等の学習会や交流会に参加し他事業所の話を聞き問題点の発見や改善策について互いにアドバイス等行いサービスの質の向上を目指している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフの気分転換、疲労解消の為定時に休憩時間を取り別室で休める様にしてストレスの軽減を図っている又職員同士の関係について把握できる様努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は入居者様の散歩付き添いや話し相手になりスタッフの勤務態度等を把握しており、折に触れねぎらいの言葉をかけている。資格取得費の援助を行い資格に応じた役割を与え自己の向上を援助している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家庭訪問を行い生活状態や家庭での位置付けを把握し本人家族の困り事や不安を聞き本人にとっての問題点を本人の立場で受け止められる様に努め本人に信頼してもらえる様努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまで家族がどの様に関わって来たのか、どんな苦労があり、どの様なサービスを利用して来たか現在に至る経緯について時間を取って、相談相手として信頼していただける様心がけている。	○ すぐ入居に至らないケースでも気軽にホームに見学や相談に来てもらい相互理解が図れる様に行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況等を確認して現在必要とされる支援について他事業所サービスも含めて説明、紹介出来る様努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホーム見学をしてもらい、医院からの往診を行なっている場合には医療関係者からの説明をしてもらい安心して入居していただける様工夫している。結論を急がせる事がない様、時間をかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である入居者様を敬う気持ちを、各スタッフが持ち生活も中で調理法や社会的常識作法等について学ぶ機会を得る様に食後の団欒等話し合える場面の設定に配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と困り事の話し合いをする機械を日常的に持つ様にして悩みや問題を共有し共に協力しあいながら本人を支える事が出来る様に気軽に話し合える関係作りをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出の機会を持てる様働きかけると共に行事へ招待し楽しい体験を共有できる様にしている。又本人と家族との関係が円滑に運ぶ様スタッフが橋渡し役を行なう様にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に本人の行きつけの美容室やショッピングセンター等に出かけられる様外出介助を行なって入居前の付き合いが途絶えないように務めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の日常、行動、言動を踏まえた上で個々の相談に乗り、入居者様同士の関係が悪くならない様にスタッフが介入、調整役となっている。又食卓の席配置にも気を配り話友達の輪が出来る様に工夫している。	○	入居者様の孤立防止に努めているが、難聴や性格上の問題等で1人過す時間が多い方もありスタッフが関わる様にしているが同年配者の話し相手が必要かと思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関への入院の為に退所された方への見舞いや面会を行い、家族にもホーム復帰の希望を失わせない様に相談してもらっている様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でそっと寄り添い関わることにより相手の心境を読み、本質的に求めている事が何かを捉え家族と共に本人の希望に添う暮らし方を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中や家族との日常の関わりの中でそれとなく聞き取りが出来る様に気を配っている、又プライバシーに関することについては徐々に先方から話してもらえよう様になっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各個人の生活リズムを把握すると共に、日々変化する状況を記録し今の暮らしについて全体的な状態を把握出来る様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見や意向を聴きスタッフや外部の専門職、自治体の関係者等の意見を総合的に考慮し介護計画に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現行のケアと計画にズレが生じていないか、常にチェックしながら状態の変化や見直しが必要な場合、計画の変更を行なう様に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄チェック表、身体状況チェック表で各個人の状況を時間をおって記載している。又本人の言語行動についてスタッフの気づき、対応した事を介護記録に残し、朝夕の申し送り時にカンファレンスを行い計画の見直しにつなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況や本人の状態に応じて必要な受診が有る場合通所介護や外出希望時の送迎介護付き添いなどを行いストレスの解消、状態の安定につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人が地域との接点を得られる様に地区の町内会長さん等との話し合いや相談を行なっている。又社協を通じてボランティアの紹介等もお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外のサービスとしてヘルパー資格を有する理容師さんの散髪を依頼している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催する様になり社協の包括の職員さんとの交流が出来、ボランティアの情報や周辺情報等の情報交換が行なわれる様になった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医療機関への受診介助や送迎を行なっている。又家族の協力が得られる場合は対応をお願いして他医療機関との関係を保つ様になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前任の責任者の指導をあり各スタッフが入居者様のプライバシー保持や尊厳を守る接し方に留意して居りトイレのこ声かけも、さりげなく誘導する等、気配りをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別に対応の仕方を工夫して本人に説明し納得した上での意思決定をしていただける様に努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の1日の過ごし方に出来るだけ添える様に、食事時間や起床就寝時間は各自のペースに合わせる様にしている又食事が遅くなった場合、夜食の提供等も行なっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服は基本的に本人に選んで着用して頂いている、自分で整容できない場合、できない部分のみ手伝う様にしている、又行きつけの美容室でパーマやヘアダイ等が出来る様に送迎支援等行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを聞きながらバランスの摂れたメニュー作りをしている、又調理の下ごしらえや盛り付け、食器運び等協力してもらっている、又スタッフは同じテーブルで同じメニューを食べ会話を楽しめる様に配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒喫煙の習慣のある方は入居されていないが、おやつ、飲み物、健康食品については個人の生活習慣に合わせ、適量を提供し自己管理できる方は自室に冷蔵庫を置き、好きな時に摂れる様にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用して個々の排泄パターンをスタッフ全員が把握できる様工夫している、又個々に合ったトイレ誘導を行なうことで、失禁せず陰部を清潔に保つことが出来ている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の習慣に合わせた入浴ができる様1人1人声を掛けてその日の希望にできるだけ合わせる様調整している。	○	休む前に足湯をすると安眠できる方には、毎晩足湯を楽しんで頂いている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の活動量や疲労度を考えて、ゆっくりと休める様にお茶呑みの時間や食事時間を調整し十分な休息が取れる様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な家事を中心としたお手伝いをお願いしている。仕事の始めと終わりにきちんと、ねぎらいの言葉をかけ感謝の気持ちを表す様にしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して本人が管理できる程度の現金を所持してもらい、受診や外出時等の現金支払いはできるだけ本人に行なってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に添って、外出、お買い物、散歩の援助、付き添いを行なっている。	○	行き先が固定化しているので、業務の調整をしながら日常の買い物や散歩に出かける機会を増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに温泉旅行や高瀬花しょうぶ祭り、山田の藤見学等を実施している。又旅行先については各個人の意見を聞きできるだけ希望に添える様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の希望に合わせて電話をかけられる様にしている。又自分でかけられない方には、スタッフがダイヤルを回し、取り継ぎ介助を行い、通話中はそれとなく席を外す様にしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人等いつでも会いに来られる様に、夜9時迄開放しているので、家族も仕事が終わりと、遅い時間に来ていただいている。又来所時は笑顔とお茶、感謝の言葉を添えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議の場で1階・2階入居者様の状態報告を行い、身体拘束の可能性についてのチェックを行なっている又拘束の基準についても学習会を行い全てのスタッフが周知し拘束をしないケアを行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者様は外出の際、室内からの操作で外に自由に出入できるようにしている、又付き添いが必要な場合はスタッフが常に行動をチェックし、不穏状態が強いときはマンツーマンで付き添い話し相手をする様にして安全を守っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にスタッフはDルームに居り、事務作業等も入居者様と同じテーブルで行い、全体の把握ができる様配慮している、又夜間は2時間ごとの巡視と物音や声等に注意をして、すぐに訪室する様にしている、又夜間もDルームで過ごす様にしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や薬等は目につき難い場所に保管しているが、はさみ・カッター・ポット等は常に入居者様が利用できる位置にあり、常にスタッフは使用中の観察を、そっと離れた場所から見守る様にしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々のケース別に、対処方法を常にミーティングし連絡帳で周知できる様工夫している、又ひやり・はつとに記入、改善策を話し合い記録し次からのケアに生かす様にしている、嚥下障害の有る方にはミキサー食・薬のすりつぶし(食事に混入しない)等気をつけて介助している、又家族への取り組みの説明も欠かさず行なう様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時は速やかに隣接の岡本医院へ連絡し、すぐに医師・看護師の処置、対応が行なわれる様にしています。又本年度も救急蘇生法の研修を実施しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回医院と合同で消防訓練を行っており、消防署の指導で誘導に際しての注意点や哨戒機の取り扱い訓練を受けている。	○	災害時非難について地域の消防団等との連絡・連携を図り協力を得られるシステムを作りたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が夜間徘徊・転倒を恐れ、薬剤を常用して眠らせる様要望される場合がありますが、かえって本人の運動能力や気力を低下させ転倒事故のリスクが増える事等話し合い理解協力を得る様にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	様子に変化が見られた場合、直ちにバイタルチェックを行い外来ナースに報告する様にしている、又介護者が勝手に判断せず医師・看護師に診てもらう様にしている、又必要に応じて管理者への連絡も行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方薬の内容を記録し変更時には日付と薬品名を記入する様にしている。又介護記録インデックスに全員の処方薬と用法・用量・効能について記載した用紙を貼布しスタッフ全員が確認できる様にしている、又副作用が心配される薬については申し送りノートに観察事項を明記している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表で全員の便通の様子を確認できる様にしている、又食事やおやつにも食物繊維の多いものを採り入れ乳製品の活用も行なっている、又歩行運動による便秘解消も心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の義歯洗浄と就寝時のポリデント洗浄等の援助を行なっている、又本人の能力に応じた介助を心がけている。事業所内での研修は実施されていない。	○	事業所内での口腔ケアの実技研修を行なう予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で毎食の食事量や水分摂取量をチェックし、栄養状態の確認が出来る様にしている、又食思減退時は医師・看護師に報告・指示をもらう様にしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対して全員が予防と早期発見についてのマニュアルを学習し、回覧しておりスタッフ・入居者様共にインフルエンザ予防接種を受け、手拭はペーパータオルを使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・ふきん等は毎食後1日3回漂白して清潔保持に努めている、冷蔵庫内も清潔に保つ様、掃除と賞味期限チェックを頻回に行なっている、又食材費は毎日購入し魚は決まった魚屋さんからその日に届けてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇に花壇を作り、玄関先にはプランターを置いて和める雰囲気を作っている、又入り口にはベンチを設置して、医院外来の方にも休める様配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテレビや音楽は、番組内容や楽曲等に気を配り、音量に関しても心地良い音量で聞ける様配慮している、又季節ごとに入居者様と一緒に飾り付けを変えて季節感を味わえる様にしている、又旬の食材で季節を楽しめる様工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士のテーブル(席)を作り食後、談話出来る様にしている。廊下に椅子を置き1人で過せるよう工夫しているが、あまり人気がなくもう少し工夫が必要。	○	Dルームで過す時間が皆様短く自室で過される事が多い、共有空間で1人で過す家具の配置等、何度か案を出しながら工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族本人と話し合い、出来るだけなじみの物を多く持って来ていただき、自宅に戻る感覚で生活できる様お願いしています。自室には仏壇・家族の写真・カーペット等なじみの品を置いていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	早朝と食後に換気をしている、寒がりの方が多いため、冷暖房は通年高めの温度設定とし、入居者様の状態を観察しながら小まめに調整する様にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方でも外出が安全にできる様、エレベーターが設置され必要に応じ手すりが設けられ安全に移動できる様配慮されている、又浴室・トイレ等も安全に利用できる作りになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状態や様子に合わせて本人の出来ること、理解出来る事、何が分からないのか、原因を知り解決できる方法を話し合いながら、その人に合った物や環境を整えていく様工夫している(例)自室前には自画像を掲示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて入居者様が休憩できるスペースを作っている、又ウッドデッキで洗濯物が干せる様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

日常生活の支援を行い、家庭的雰囲気や隣接の医院もあり、ゆっくり安らげる安心の生活が継続出来、地域に密着したホームを目指し頑張っています。